

御野小だより

— だれもが あこがれる 御野小学校! —

御野小学校

2026年
(令和8年)

No14



3 学期始業式～新しい年を迎えて～

【3学期始業式 式辞】

みなさんおはようございます。冬休みは楽しかったですか。昨日は地震がありました。みなさんは大丈夫でしたか。それではあらためて、新しい年の挨拶をしましょう。あけましておめでとうございます。

昨年は巳年でした。今年は午年です。皆さんは様々なことに取り組み、「できるようになった」「成長した」と思うことがあったと思います。先生たちも、そんな皆さんと一緒に頑張ったり、皆さんの成長を喜んでいましたよ。

今年は何年か知っていますか？午年(うまどし)です。午年の人は手を挙げてください。午年の由来は、「新しい挑戦や発展、努力が実を結ぶ縁起の良い年」とされます。いよいよ新しい年を迎え、皆さんの心は、「今年1年を素敵な年にしよう」というやる気に満ちていると思います。今年もしっかり努力を重ね、御野小学校の皆さんがさらに大きく成長することを願っています。

さて、去年の4月に、校長先生はみなさんに「御野小学校を誰もがあこがれる学校にしよう」という話をしました。年末の山陽新聞で、「郷土史、劇で伝える」と題した本校6年生の取組が紹介されていました。地域の人たちも、6年生の皆さんも学習を通して「御野」に誇りを持つことができたという素晴らしい取組を、とうとうメディアで紹介することができました。一方で、毎日進んでもっとノートに学習をし、算数に自信がついたんだという人や、1年生の重い荷物をそっと持ってあげた人、昨日の地震の時、ラッキー教室にかけつけた校長先生に、「先生大丈夫だった？」と優しい声をかけてくれた人もいます。そんな一人一人の頑張りや優しさも、御野小学校の素晴らしいところだと思います。

さあ、いよいよ今日から3学期が始まります。きっと3学期は、それぞれの学年のまとめをするとともに、次の学年へのスタートに向けて頑張ろう、と意欲を燃やしていることでしょう。

みなさんは、3学期の終わりにどんな自分になっていたと思いますか。(まず自分で考えてみてください。)

そのために、どんなことをしますか。

自分の力を伸ばすには、目標を立てるだけではなかなか達成できません。今のように、どうやったらできるか、しっかり考えること、友達と話し合い助け合って頑張ることが大切です。

校長先生からみなさんに、目標に向けてがんばるため、大切にしてほしいことを2つ話します。

1 つ目は努力し続けることです。まさに午年の由来通り、大きく発展するためには努力が大切です。校長先生は今年もお正月に箱根駅伝を見ました。青山学院の総合優勝三連覇というすごい結果の陰には、「努力に努力を重ねた」という言葉がたくさん聞かれました。毎日毎日、走って、走って…。すぐに素晴らしい結果が出るとは限りません。でも、すぐあきらめず、目標に向かって努力し続けたのだと思います。みなさんも、「自分はダメだ」と思わずに、自分の可能性を信じて努力を重ね、力を伸ばしてくださいね。

2 つ目は、心や体の元気です。調子が悪いときは、頑張ろうというやる気ができません。そこでまず、1 日の生活を振り、生活リズムを整えたり、運動をしたり、感染症予防をしたりして、よりよい生活習慣を作りたいと思います。ゲームをついつい長時間したり、学習時間が少なくなったりしていませんか？誰かに言われるのではなく、自分の生活を振り返りながら、健康に過ごすためにどうすれば良いか考えてみてください。また、困ったことや心配なことは必ず先生や友だち、お家の人に話してください。相談すると問題が解決したり、解決の仕方が分かったりして、心も元気になると思います。心や体が元気になるよう行動しましょう。

さてこのあと、学級で3学期の目標を決めるかもしれませんが、今話した2つのこと「努力」「心と体の元気」を大切に、目標達成に向けがんばってください。また、どうしたら達成できるのか、うまくいかないのはなぜか、ふりかえりながら取り組んでみるといいですね。

みなさんの3学期の成長を期待して、校長先生のお話を終わります。

2026年(令和8年)1月7日 校長 川崎 真由美

地域の方から素敵な作品をいただきました



諸上カネ子様より、みんなが元気でがんばることができるようにと、今年の干支「午年」を祝う置物をいただきました。始業式で紹介させていただき、校長室に飾っています。縁起の良い素晴らしい作品をいただき、温かく晴れやかな気持ちで新年のスタートを切ることができました。

6年生が郷土のすばらしさを発信しました。



【11月24日(月)「古墳と雅楽の夕べ」みのっ子博物館】

古墳の構造を解説する児童



福山の御野小 240基集積の特色アピール

福山市神辺町の御野小の6年生が、地域の古墳群にまつわる歴史を伝える講座を同校で開いた。約1700年前の先人の営みに思いをはせ、西日本最多規模の約240基が残る地元の特徴をアピールした。24人がスライドを用いたり、研究者を演じたりして、遺体を埋葬する古墳の石室には2種類の構造があることや、地域には渡来人から製鉄技術が伝えられたことを解説。「素晴らしい文化が栄えた御野の歴史を守り、伝えたい」と声を合わせた。保護者や地域住民たち約30人が聞いた。

児童は1学期に住民団体「御領の古代ロマンを蘇らせる会」から古墳群の案内を受けた。教科書に出てくる古代遺跡と比べ、あまり知られていない地元の遺跡を知ってもらおうと企画した。舘沢新さん(12)は「こんな昔のものが残っているなんてすごい」と学習を振り返った。井手豊希さん(12)は「他の場所でも披露して多くの人に歴史を伝えたい」と話していた。6年生は、古墳を解説するポスター作成や段ボールで再現した石室の展示にも取り組んだ。(坂本 題)

【12月4日(木)中国新聞】

郷土史 劇で伝える

福山市立御野小(同市神辺町下御領)の6年生は、遺跡が集積する郷土の歴史学習を基に「古墳講座」を創作した。考古学者や戦隊ヒーロー風チーム、古代人。児童たちがさまざまな役を演じるオムニバス劇立ての力作だ。11月に地域の催しで発表。アンコールの要望が相次ぎ、再演するほど好評を博している。(井上建吾)

多彩な場面、再演要望も



「先祖の築いた素晴らしい歴史を、その時を生きた人々の記憶を、みんなと守り、伝えたい」と地域には西日本最大級とされる集落跡「御領遺跡」があり、山中に古墳群が残る。児童たちは4月から学習。郷土の歴史を伝えるために、古墳講座を締めくぐる児童たち「11月28日」

御野学区町内会連合会の高野孝行会長(79)は「工夫を凝らし、最高の出来。子どもたちが古墳について、これだけ学んだことに意義がある」と絶賛。古墳研究家を演じた河野圭佑さん(11)は「みんなが教を切れないくらい勉強して作った自信作。ほかの地域の人にも見てもらいたいし、後輩たちに受け継いでほしい」と話した。

同小は録画した講座のDVD化とともに、要望があれば再演を検討する。

【12月20日(土)山陽新聞】

【3学期の主な行事についてのお知らせ】

- 1月21日(水) マラソン記録会(運動場から路上に出て走ります)
- 2月2日(月) 新一年生入学説明会
- 2月6日(金) 神辺東中学校入学説明会(6年)
- 2月20日(金) 参観日・学級懇談
- 3月5日(木) けやきっ子サポーターの方への感謝の会
- 3月6日(金) 神辺史跡巡り(6年)
- 3月19日(木) 卒業式(全校児童が登校します)
- 3月25日(水) 修了式・離任式(2026年度)
- 4月8日(水) 始業式
- 4月9日(木) 入学式